



## TKK 共通シラバス

1. 科目名	社会防災特別講義Ⅱ				
2. 教員名	村井 雅清		3. 担当大学	神戸学院大学	
4. 対象学年	年	5. 開講時期	前期	後期	6. 単位数
					2 単位

### 7. 授業の目的・到達目標（神）、授業のねらい及び具体的な達成目標（工）、授業の内容（基本的枠組）（東）

21 世紀に入り、大規模自然災害が多発しており、履修生が現代社会における防災・減災に係わる社会的諸課題を解決する実践力を身につけることが求められている。また自然災害では公的機関の救助はもとより、多彩な支援の方策を通じて、緊急、復興・復旧、防災のそれぞれのステージを継ぎ目なく進めることにより、災害に負けないレジリエンスを高め、安心して安全な社会を築く道筋を理解することができる。本講義は、阪神・淡路大震災を契機に神戸の市民を中心に設立した「CODE 海外災害援助市民センター」との提携により実施するものであり、被災現場での支援の多様性と被災当事者のエンパワメントについて、履修生と課題や展望を共有しつつ、解決策を考察する。

- ・我が国の災害救援ボランティアを中心とした災害サイクルを通じた支援活動について、CODE 及び海外で活躍している NGO の活動について実際に活動している方々、地域のボランティアの方々から知識を得ることができる。

- ・災害に強い地域社会を構築する方策を学びつつ、現代社会における人々の暮らし、仕事と産業、および文化の形成に係わる諸事象を多面的、総合的に理解することができる。

- ・災害救援を通して NGO やボランティアの社会の役割について理解できる。

- ・支援の実践知は多様であること。多様であるから見落としが少なくなることを理解できる。

- ・多様性と包摂性が支えあいの要素であることを理解できる。

### 8. 授業のキーワード（神）

協同自助、個の尊重、エンパワメント、住民自治、減災サイクル、地域力、農といのち、心のケア、社会的弱者、貧困と災害復興、人間復興、支援の実践知

### 9. 授業の進め方（神）

複数の講師によるオムニバス形式での授業とする。講師によっては、小人数のグループワークを取り入れる。各回の最後にコメントカードを記入し、翌週の初めにその内容を履修生とする。

### 10. テキスト、参考書、指定図書（神）

その都度紹介する。

### 11. 授業時間外に必要な学修（神）事前、事後に受講してほしい講義等（東）

CODE のホームページ< <http://www.code-jp.org/>>などを参考にし、積極的に CODE の実践から学ぶ。

支援の実践知については、『KOBE 発災害救援』（神戸新聞総合出版センター発行）、『ボランティアが社会を変える』（関西看護出版社発行）、『不良ボランティアが社会を変える』（被災地 NGO 協働センター発行）『ボランティアの心構え』（村井雅清著、ソフトバンク社発行）などを熟読する。

<b>12. 提出課題など（神）</b>
毎回のレポートと期末レポートを提出課題とし、講義内容によっては履修生のレポートから課題と展望を抽出し、履修生と共有する時間を確保している。
<b>13. 成績評価方法・基準（神）、成績評価方法及び水準（工）、評価の方法（東）</b>
毎回のレポート40%、期末レポート60%にて評価する。
<b>14. 履修するにあたって（神）、学生へのメッセージ（工）、受講生への要望（東）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の私語は禁ずる。</li> <li>・原則、遅刻は認めない。</li> </ul>
<b>15. 参考（オフィスアワー（工）等）</b>

**【授業計画（神）（東）、授業計画及び準備学習（工）】**

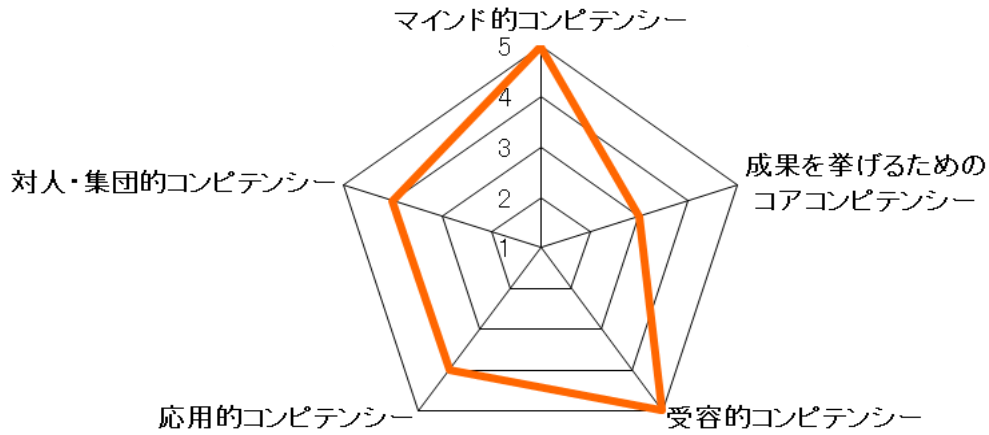
講義番号	主題	内容
第1回	ガイダンス (村井 雅清)	授業の進め方
第2回	阪神・淡路大震災20年とボランティア (村井 雅清)	阪神・淡路大震災22年を振り返り、ボランティア活動の意義を学ぶ。
第3回	阪神・淡路大震災以降の国内災害と東日本大震災におけるボランティア活動を振り返る。 (村井 雅清)	阪神・淡路大震災以降の国内災害と東日本大震災におけるボランティア活動を振り返り、ボランティア活動の意義を学ぶ。
第4回	ボランティアでもできる心のケア (村井 雅清)	災害時の「こころのケア」は、精神科医や臨床心理士など専門家しか関与できない分野とされていた。 しかし、阪神・淡路大震災から22年、NPO・NGO・ボランティアが担う国内外の災害支援を振り返ると、ボランティアな行為が「心のケア」に役立っていることに気づく。ここでは、これまでの具体的な支援活動を通してボランティアでもできる「心のケア」について学ぶ。
第5回	CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について	CODEの事業方針と概要説明とその方向性を理解する。

	(吉椿 雅道)	
第6回	フィリピン台風後の復興支援から学ぶNGOの取り組み (吉椿 雅道)	2013年に発生したフィリピン台風被害に対する支援活動から学ぶ。特に、被災当事者の中でも女性のエンパワーメントによる復興への影響を学ぶ。
第7回	四川大地震から学ぶ民際交流 (吉椿 雅道)	中国四川大地震(2008年)後、CODEが実施した復興・復旧支援活動から国境を越えた支えあいについて学ぶ。NGOが行う民際協力を通して、支援の実践知を学ぶ。
第8回	ハイチ地震から学ぶ (吉椿 雅道)	2010年のハイチ地震被害に対する支援活動から学ぶ。世界でも最貧国と言われるハイチが、そもそもの貧困から脱出する課題と災害からの復興課題との関連を学ぶ。
第9回	アフガニスタンと開発援助 (村井 雅清)	CODEが2002年にアフガニスタン支援に入った直後のアフガニスタンの現実と7世紀から8世紀に遡り、日本とアフガニスタンとの歴史的なつながりを踏まえ、2003年から始まったアフガニスタン農村支援を通じた開発援助のあり方を学ぶ。
第10回	ネパール地震後の住まいの再建を通して、現地の暮らしおよび文化と自然との共生について学ぶ (村井 雅清)	2014年4月に発生したネパール地震支援に関わり、地震によって倒壊した住まいの再建を通して、山間部における被災地の復興途上を、被災者と共に歩むことから、生態系を守り、地域の伝統や文化を尊重し、持続可能な開発の意義を学ぶ。
第11回	災害とジェンダー (斉藤 容子)	災害時における女性の社会的役割について学ぶ。特に宗教によって、結果的に助成に被害が集中するのは何故かということを選び、課題解決方法を学ぶ。
第12回	災害時における地域力と備えの大切さについて (織田 峰彦)	自然災害をマスコミの立場で取材した経験を通じて、災害時に対する地域力について学ぶ。
第13回	農業といのちと暮らしのつながりから持続可能な社会とは何かを学ぶ。 (本野 一郎)	「農」を通して持続可能な社会について考える。
第14回	地方分権と被災者主体、市民主体とは	地方分権と被災者主体、市民主体—環境・防災が有する地域自治的な視点を学ぶ。

	(松本 誠)	
第 15 回	課題と展望 (村井 雅清)	後期 14 回の講義を振り返り、重要なキーワードを確認しつつ、課題と展望を抽出しつつ、社会貢献との関係を理解する。

**【コンピテンシー】** ※コンピテンシーについての詳しい説明は[こちら](#)。

(下記に、身につけることが期待されるコンピテンシーを 5 段階評価でご記入ください。  
期待度が高いほうが 5、低いほうが 1 です。)



コメント